私立大学環境保全協議会
私大環協ニュース
第59号 2016.1
Environmental Protection Association of Private Universities NEWS

第29回夏期研修研究会　2015年8月6日・7日（於：東京農業大学　世田谷キャンパス）

講演会

交流会

グループ討議

CONTENTS

環境ニュース●飛田満教授インタビュー　2
会員校紹介●東京薬科大学　4
会員校紹介●東京理科大学　5
賛助会員紹介●東北緑化環境保全株式会社　6
賛助会員紹介●株式会社野毛印刷社　7
コラム、事務局だより　8

環境ニュース

目白大学社会学部地域社会学科 飛田満教授 インタビュー

哲学から環境倫理学・社会学へ 環境政策の背景や基盤となる思想の探求

私たちは環境問題を考察するとき、どうしても科学的アプローチを優先してしまう傾向があります。というのも、このアプローチは事実（データや統計）をベースにした手法で、数値化されやすいがゆえに、誰の目にもわかりやすい結果をもたらしてくれるからです。では非科学的なアプローチが不必要かと言われれば、そうではありません。その理由を、目白大学社会学部地域社会学科の飛田満教授はこう説明します。

「哲学や倫理学を専攻する者がなぜ環境問題を研究するのか、と聞かれることがあります。この質問にはこう答えています。生物多様性の危機や地球温暖化の脅威、そして高レベル放射性廃棄物の問題について考えることは、100年後、1万年後の地球のリスクについても理性を働かせる必要があるということです。これはもう科学的・経済的な問題以上に「人類はどうあるべきか」という哲学的な問いであり、こうした問いを解決するためには哲学的・社会学的な視点、つまり人間の意識改革と社会の構造転換が必要であると言わざるをえません」

グループワーク

科学技術の進歩とそれに伴うリスクはコインの裏表の関係と同じ。だからこそ、それを扱う人間の思想は重要であり、哲学的・社会学的なアプローチは有効な手法なのです。

「もともと私は専門的に環境問題を研究してきたわけではありません。専攻は哲学で、ヘーゲルをはじめとしたドイツ哲学の研究をしていました。ただ私の尊敬する教授がヘーゲル哲学の大家でありながら、環境倫理学の第一人者でもあったので、その先生の書物をいろいろと読ませていただき、環境倫理学の重要性はすでに認識していました」

飛田教授はドイツ哲学を勉強するために本場ドイツへ2度の留学も経験しています。ドイツでの生活も環境への関心を高めた要因になったようです。

「実際にドイツで暮らしてみて、廃棄物対策やエネルギー政策の分野でドイツが先進的な考え方をもって取り組んでいることを肌で感じることができました。瓶の色での分別なんかは朝飯前。日中に電気をつけていて怒られたこともあります。質実剛健な国民性と原理原則を貫く風土が環境問題への意識の高さを育んでいるのかなと。こうした経験を通して環境問題や政策を思想的なレベルで捉えなおしてみたいと思うようになりました。ちょうど私なりに哲学研究が落ち着いて新しいことを求めていたということもありますが。それまで抽象的な問題や見えない世界の研究ばかりしてきましたから、もっと生活に寄り添った現実的な社会問題を研究してみたいという欲求があったのも事実です。環境問題への取り組みは興味深いものばかり。今後もずっとライフワークにしていきたいですね」

学生、行政、企業、非営利団体など ネットワークの構築が大きな力を生む

飛田教授がもっとも力を注いでいることのひとつにゼミ活動があります。ゼミ活動について飛田教授はこう話します。

「私のゼミのコンセプトは「環境問題の視点から地域社会の未来を創造する」です。そのうえで「エコアクション」「環境フィールドワーク」「環境PLB（課題解決型学習）」を3つの柱として活動しています。試行錯誤の連続で学生たちとは格闘してばかりですが、抽象や論理の世界ではなく、社会的・協働的な環境教育ができたらと考えています」

フィールドワーク

飛田ゼミを紐解くキーワードは“連携”です。

「行政や企業だけではなく小学校やNPO団体でも学生のサポートを必要としています。こうしたところ

PBL

には行動派の人が必ずひとりはいますので、極端なことを言えば、学生たちはそこに居るだけもいい。それだけで化学反応を起こし、色々なパワーや可能性が生み出されていきます」

こうした学びはシャイな学生たちにとって貴重な経験となります。

「共通の話題がない人とも一緒に作業することはありますし、年齢が離れすぎて話題についていけないこともあるでしょう。ですが、こうした経験を通して、気配りの仕方や言葉遣い、世代ごとの関心事や話題などを学ぶことができます。子どもからお年寄りまで幅広い世代と接するわけですから、社会人基礎力や対人スキルは必然的に向上していきます。とくに私はアクティブラーニングに力を入れていますので、現場での活動を通して、学生たちの環境マインドを醸成させ、将来「環境ジェネラリスト」として行動・活躍できる人材になってほしいと考えています」

3つの柱のひとつ「エコアクション」学生自らが体験して環境保全を学ぶ

では実際、どのような活動に取り組んでいるのでしょうか。すでに『私立大学環境保全協議会会誌第22号』に「環境フィールドワーク」を紹介して頂いていますので、今回は「エコアクション」についてお話を伺いました。

「まず「学生自らが企画し実践する環境プロジェクト」を「エコアクション」と呼んでいます。2011年から始まった全学的なプロジェクトで、私のゼミでは毎年2件から3件の企画が採択されています。2014年は3つのエコアクションを企画・実践しましたが、その他PBLやボランティア活動など、ゼミの「環境アクティブラーニング」の取り組みが評価され、2015年3月に新宿区主催「新宿エコワン・グランプリ」グループ部門チャレンジ賞を受賞することができました。2015年に入ってからは新たに3つのプロジェクトに取り組みました」

ゴーヤ収穫

その3つとは「緑のカーテンのゴーヤでゴーヤ茶を作ろう」、「廃油で石鹸を作ろう」、「ポイントカードでNOレジ袋」のこと。それぞれどのようなプロジェクトなのか飛田教授に聞いてみました。

「まず廃油から石鹸を作るプロジェクトは、その名の通りです。学食で廃油を分けてもらい、危険な薬品を使わずに、混ぜるだけで作れる「まぜたら石鹸」を使って廃油石鹸を作りました。その石鹸は小さく切って、桐和祭（学園祭）のエコクイズの賞品として配りました。また目白大学では毎年夏になると「緑のカーテン」のゴーヤを植栽します。この日よけとして育てているゴーヤでゴーヤ茶を作り、桐和祭の来場者に試飲していただきました。このゴーヤ・プロジェクトは「注目されるエコキャンパス」として雑誌にも掲載されました。最後の「ポイントカードでNOレジ袋」ですが、これは大学近くの商店街にある3店舗に協力を依頼。ゼミで作成・発行したポイントカードを預けて、レジ袋を辞退したお客様にポイントを付加し、一定のポイントが貯まったら一定額の割引をしてもらう。この方法でどの程度のレジ袋が削減できるかを検証しましたが、結果として店舗の関わり方によって削減率が大きく左右されることが分かりました」

イベント参加

炭作り

2016年1月からはすでに新しいプロジェクトが始動するとのこと。

「1月から3月にかけて全5回シリーズで市民向け環境講座「新宿エコ市民大学」を開校する予定です。私もレクチャーしますが、実際に環境問題に取り組んでいる企業や行政の担当者、校長先生やNPOの方などをお招きして、それぞれの立場から活動報告をしていただき、参加者の間で意見交換をしてもらおうと考えています。このワークショップを通じて、学生たちと企業や行政、市民の方々との間に新たなネットワークが構築できれば嬉しいですね」

来年の飛田教授の活動からも目が離せません。

インタビューを終えて

森の学園と呼ばれる目白大学には700種類以上の草花が生え、豚や孔雀なども飼育されています。環境保全活動だけではなく、地域イベントにも参画するなど、アクティブな飛田教授。穏やかな雰囲気の中に力強さがある印象を受けました。

会員校紹介

このページでは毎回、会員である大学の環境問題への取り組みを紹介していきます。

東京薬科大学

大学紹介

本学は、1880年に藤田正方が設立した東京薬舗学校を前身とする、日本で初めての私立薬学教育機関です。「ヒューマニズムの精神に基づいて、視野の広い、心豊かな人材を育成し、薬学並びに生命科学の領域において、人類の福祉と世界の平和に貢献します。」という本学の理念に沿って、教育環境を提供し続けております。現在は、薬学部と生命科学部、大学院の約3,900人が、自然豊かな八王子キャンパスで学んでいます。

来訪者の玄関となるアカデミックプラザ

環境配慮の組織と取り組み

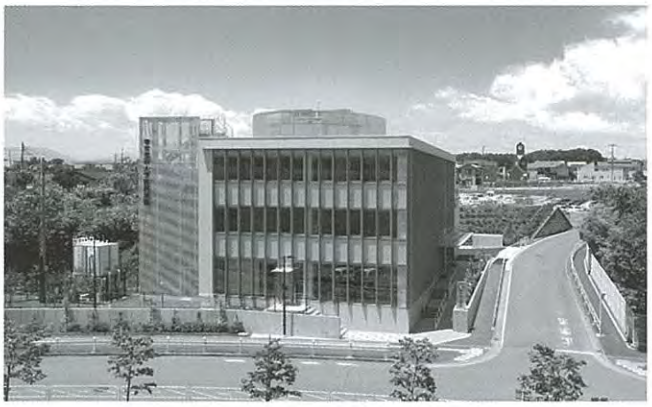
次世代への地球環境保全・改善に寄与するために、学生・教員・職員が一体となって、あらゆる活動が環境と調和されるように努めています。その中心として、構成員の代表者が参画する「環境経営委員会」を軸に本学独自のEMS「環境経営システム」を運用しております。

薬用植物園を含めた本学の全景

薬学部・生命科学部・事務・生協・事業者・学生の代表者で委員会を組織し、年4回を基本とした委員会に合わせて、各自環境配慮の取り組みを行っています。これは、既存のISO14001に準じた形の運用ですが、数値目標だけに捉われることなく現実的な利便性を向上させながらも、環境配慮活動を行っていく目的で進めています。

委員会が定めた年次計画に基づく形で、廃油を用いた石鹸作り体験講座の開催、薬学・生命科学と環境問題をリンクさせた講義の開講、ほたる観察会、グリーンカーテンなどを実施しています。また、実験排水については廃水処理場において検査・分析を実施し、環境に対して影響がないか、法令順守がされているかを監視する組織体系を構築しています。

直近の新たな活動としては、学生の代表者が新入生に対して、環境経営委員会の活動紹介や地球温暖化のメカニズムを解説する機会を設け、新たな環境マインドを持った学生を育成する取り組みを始めました。



2014年に竣工した東京薬科大学附属社会医療研究センター

本学の環境方針やマネジメントの概要はウェブサイトでもご確認いただけます。
http://www.toyaku.ac.jp/about/effort/environment

東京理科大学

大学紹介

東京理科大学の前身である「東京物理学講習所」（2年後「東京物理学校」に改称）は1881年、東京大学を卒業した21名の理学士たちによって創設されました。当時は自由民権運動が華やかな時期で、理学は軽んじられる傾向にありましたが、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の理念を掲げ、日本の近代化に大きな貢献を果たしてきました。創設以来、「実力をつけた人しか卒業させない」という実力主義を貫き、これは現在でも指定科目の単位取得が進級の条件となる「関門制度」に受け継がれています。これは基礎をしっかりと固めた後に専門分野の研究を行うことができると考えているからで、学生を振り落とす制度というより、むしろ学生を真剣に育てる制度といえます。

本学は、創立以来130余年経過し、8学部33学科、大学院は11研究科31専攻を擁する私立最大級の理工系総合大学として現在も発展を続けています。キャンパスは神楽坂、葛飾、野田、長万部、久喜へと広がっており、2016年4月には工学部情報工学科を葛飾キャンパスに新設、経営学部は神楽坂に移転しビジネスエコノミクス学科を新設します。

環境への取り組み

東京理科大学では、2005年9月神楽坂キャンパスに化学薬品の集約的管理、環境汚染や実験事故の防止、学生・教職員ならびに周辺住民への健康影響を防止する組織として「環境保全センター」を設置し、2010年4月には、全学的な学長直轄の組織として「環境安全センター」に改編しました。

環境安全センターでは、薬品類の管理や環境安全に係る教育研活動、実験排水・排気の化学分析、研究室内の作業環境測定などを行っています。

①薬品類（化学物質）の管理

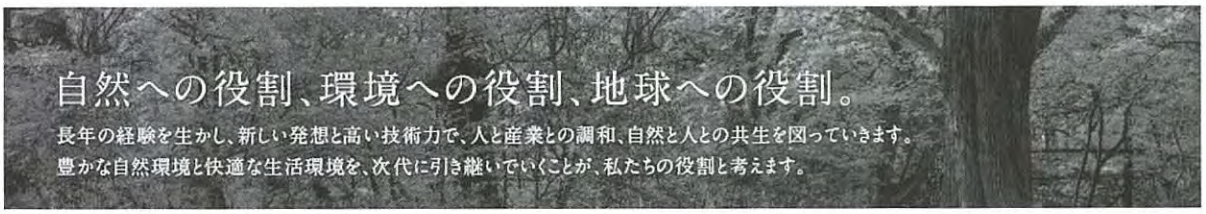
化学物質の出入りを管理し、法的規制事項を遵守するため、化学物質管理支援システムを採用しています。また、実験活動から出る廃棄物（実験廃棄物）についても有害な物質が含まれているため、一般の廃棄物とは分けて回収しています。実験廃棄物の分類は、回収委託業者も含めて協議検討を行い、各キャンパスの実情に合わせた分別フローに基づいて行っています。

②環境安全に係る教育活動

環境安全の立場から教員・学生に対して教育訓練（放射線、X線、高圧ガス、生物科学実験など）を行っています。また、化学物質管理支援システムの使い方や実験廃棄物の回収方法などを纏めた「環境安全のしおり」を作成・配布し、教員・学生へ学内ルールの周知に努めています。

賛助会員紹介

東北緑化環境保全株式会社



弊社は 1972 年（昭和 47 年）公害問題が全国各地で発生し大きな社会問題となる中，企業への環境保全に対する社会的要請が一段と高まりをみせたことから，緑化の施工維持管理および環境保全の調査，測定，分析を主たる目的に，東北電力㈱のグループ企業として設立されました。

【造園・建築・土木等工事】

緑のコンサル（設置施工）	街路緑化，都市公園，工場緑化や，ヒートアイランドを緩和する屋上・壁面緑化など，多様な緑の役割や効果を踏まえてコストやメンテナンスの視点より，計画・設計・施工のサービスを提供
土壌・地下水環境コンサル	土壌汚染対策法に基づく調査から対策まで一貫した体制でサポート。土壌汚染による多様なリスクを低減するための提案を実施
放射能物質の除染除染関係	関係省庁の定める除染ガイドラインに準拠し，除染前後の空間線量率測定および適正な除染工事を施工

【環境調査関連】

自然環境（動物・植物・生態系）調査	様々な目的に応じた調査計画の立案から現地調査，影響予測評価を実施，保全措置の検討し，定量的で客観性のある成果を提供
環境調査（大気・水域・気象など）	大気環境（汚染物質など）・海域・河川・湖沼環境の現況調査と影響予測評価および対策の検討
騒音・振動・低周波音調査	建設工事や道路交通に係る騒音・振動，工場などからの低周波音など現況調査から解析・予測評価を実施，的確な対策を提案
環境アセスメント	事業（発電所・道路など）の計画段階での環境配慮から，事業実施前の調査計画立案・現況調査・予測評価を行い，的確な対策の提案。調査実施後のモニタリングから住民説明会や協議会の対応まで一貫した体制でサポート
環境コンサルティング	環境やエネルギーに関する施策策定および見直しの支援

【測定分析関連】

計量証明事業・特定計量証明事業	水質・大気・土壌・底質・排ガスなど，様々な媒体の測定・分析を実施，「計量法」に基づく計量証明書を発行
放射線（能）測定	関係省庁などが定めるマニュアルや分析法に準拠し，サーベイメータなどによる放射線測定やゲルマニウム半導体検出器による放射性核種分析を実施
各種有害物質分析	農薬類，環境ホルモンなどの微量物質について測定・分析
素材の状態構造解析	素材の結合状態や原子構造を解析，物質の性質などをミクロレベルで提供，RoHS 指令・WEEE 指令（EU）
商品販売（IASO，工業薬品など）	薬品管理支援「IASO」・高圧ガス管理支援「IASO G」システム（使用履歴・集計管理）および各種工業薬品（アンモニア・苛性ソーダ）の販売

TRK Tohoku Ryokka Kankyohozen 東北緑化環境保全株式会社

〒980-0014　仙台市青葉区本町 2 丁目 5 番 1 号
TEL(代表)022-263-0607
URL:http://www.tohoku-aep.co.jp

株式会社野毛印刷社

「環境」をテーマとした取り組みから さらなる発展を目指して。

「環境に配慮して持続可能な社会づくりに取り組む企業」として、
事業活動「eco noge」を掲げ、
CSR活動の一環として、地球環境・地域活性・社会貢献に
日々取り組んでいます。

CSR

01 地球環境

- ISO14001認証
- 環境配慮紙「FSC」推奨
- グリーンプリンティング認定工場 etc.

02 地域活性

- 学生に対する社会体験の受け入れ
- 湘南国際マラソンのボランティア活動
- 近隣道路の清掃 etc.

03 社会貢献

- 寄付金付き PBペーパー「FSユース」紙による被災者支援
- メディアユニバーサルデザインの推奨 etc.

活動を「カタチ」に変え、発信していくために。

メディアコンテンツ制作スタジオ「C.SQUARE YOKOHAMA」開設。

これまで、私たちの活動を動画という「カタチ」で記録し発信してきました。
私達は、さまざま大学・企業様で行われている
環境や地域社会への活動に協力していきたいという想いから、
映像制作事業の一歩として「C.スクエア横浜」を開設しました。
「C.スクエア横浜」では、ムービースタジオ・フォトスタジオ・セミナールームを軸に、
メディア作成から配信まで承っています。

野毛印刷
〒232-0027 横浜市南区新川町1-2
TEL:045-252-2515
FAX:045-252-2674
http://www.noge.co.jp
野毛印刷 検索

コラム

今年の夏は記念行事が多く執り行われました。8月12日は日航機墜落から30周年目に当たり御巣鷹山では慰霊追悼式が執り行われ、社長が「当時を知る人が少なくなるが事故を決して忘れてはならない」と述べています。8月15日には武道館で「全国戦没者慰霊祭」が70周年として執り行われました。天皇陛下のお言葉のなかにも「決して忘れてはならない」とありました。しかし、人間の脳は忘れるように出来ています。失敗、事故、災害などの不都合な経験も時がたつと忘れてしまい、その記憶の風化により数多くの失敗が繰り返されてきました。しかし人は忘却により前にも進んでいけるのです。失敗学の畑村洋太郎東京大学名誉教授は「記憶の減衰」を数字の「三」をキーワードに次のように述べておられます。[1]その組織がいくら正確に活動の記録をしていてもたいてい「三十年」もすると当事者が引退し、実体験に基づく教訓とすべき記憶が組織から薄れていくものである。大学でも30年程で担当者は代わり、組織の記憶も保管庫の中に埋もれてしまうのです。

更に大きな共同体では、そのことがいかに重大であっても「六十年」もするとその社会から記憶が薄れていくのは人間の寿命に関係しています。さらに「三百年」もすると完全に歴史となってしまうのです。例えば、約300年前に噴火した富士山については、常に気象庁が流すレベル1の活火山であるとの警鐘を多くの国民は深く気に留めていません。

個人の場合は、たとえ当事者であっても三日坊主はともかく、「三カ月」で冷静に受け止めるようになり、「三年」で記憶はだいぶ薄れるそうです。1年前の9月27日には御嶽山の噴火により63名が犠牲となる災害が発生しています。今年9月の阿蘇山噴火で黒い噴煙を見た観光客は「死ぬかと思った」と言っています。1年前の災害は未だ鮮明に国民の心に残っています。

さて我々大学においても不都合なことは度々起こっています。本協議会の環境保全の一面である「より安全なキャンパス」の観点から、実験室の火災について筆者の経験を書かせて戴きます。都内の教育機関における出動火災は年数件あるそうですが、筆者自身は約10年間に3件の化学実験室火災を経験しています。学内の安全委員会に属していた立場上、ある時は現場に急行し、現場処理、事故原因の究明、再発防止の会議等にかなりの時間を費やしました。当時、火災を経験された会員校よりのアドバイスは大変貴重な情報として活用させていただきました。感謝しております。本協議会のミッションの一つとして、会員校で起こった不都合な事例の原因究明と事後処理の実務、さらに外部には知られたくない責任の取り方なども教育機関の共通の記憶に留めておかなければなりません。環境保全のための施策の顛末(成功も失敗も)の記憶も同様に共有すべきではないでしょうか。「化学物質適正管理委員会」においても化学物質が関係する事故事例を収集し、不適切な取り扱いにより人身事故・火災などが起こった事例を詳細に記録する予定であります。

本協議会は昨年30周年記念行事を執り行い、会の存在意義として会員間の安全意識を確認したところです。その一つが作成中の化学物質の適正管理マニュアルです。一般に、周年記念日においては「風化させない」がお定まりの言葉です。記憶の減衰が止められないのであれば、科学的な原因究明と当事者の責任はたとえ不都合な記憶であれ風化させてはなりません。全て人間の判断が引き起こした出来事の責任を明確にすることが必要です。最近話題の「傾きマンション」の責任の行方は大学で建築・設備を担当されている皆様には関心事と思われます。明日かもしれない未来の惨事において、それぞれの立場で各人のスキルに基づく賢い判断が結果を大きく左右します。先人のとった行動の検証こそが後世への貴重な資料なのです。それ以外はおおらかに歴史の中に埋めて、風化に任せてはいかがでしょうか。

恩田正雄（私立大学環境保全協議会　名誉会員）

1)「未曾有と想定外」－東日本大地震に学ぶー　畑村洋太郎　講談社現代新書（2011）

事務局だより

第32回 総会･研修研究会プログラム

【日　時】

2016年3月14日(月)　13:00～13:30　総会
　　13:40～17:20　研修研究会
　　17:30～19:00　交流会
　3月15日(火)　9:00～12:30　研修研究会

【会　場】

東京理科大学　葛飾キャンパス
〒125-8585　東京都葛飾区新宿6-3-1
TEL:03-5876-1581(環境安全管理室)

【プログラム】

《総　会》　3月14日(月)　13:00～13:30
　　会場：講義棟1階101教室
○議　事　2015年度活動･決算報告･新会員紹介等
　　2016年度活動計画･予算･次期役員審議等
○挨　拶　私立大学環境保全協議会会長　伊藤　政博

《研修研究会》

[第1日目]　3月14日(月)　13:40～17:20
　　会場：講義棟1階101教室

1.開会挨拶　13:40～13:50
　私立大学環境保全協議会会長　伊藤　政博
2.開催校挨拶ならびにキャンパス紹介　13:50～14:20
3.特別講演　14:20～15:10
　(公社)日本作業環境測定協会専務理事　飛鳥　滋
　「労働安全衛生法における化学物質リスク管理
　　－その体系と基本的考え方－」
4.話題提供　15:10～15:40
　東京理科大学環境サークルエコタスク代表代理　戸田　和輝
　「(仮)東京理科大学環境サークル活動報告」
　移　動･休　憩（20分）
5.グループ討議1　16:00～17:20
　会場:講義棟3階各教室
　細分化したテーマ(4グループ)から1つを選択してください。
　A ファシリティ機能の向上
　B エコ活動と人材の育成
　C 物質の適正管理
　D マネジメントシステムの構築
　移　動(10分)

<交流会　17:30～19:00　会場：管理棟2階食堂>

[第2日目]　3月15日(火)　9:00～12:30
1.グループ討議2　9:00～11:10
　会場：講義棟3階各教室
　休　憩･移　動(20分)
　会場：講義棟1階101教室
2.研修講演　11:30～12:20
　立命館大学理工学部建築都市デザイン学科教授　近本　智行
　「サステイナブルなキャンパスづくりと、
　　これを活用した研究･環境教育」
3.閉会挨拶　12:20～12:30
　私立大学環境保全協議会副会長

私大環協ニュース

私立大学環境保全協議会
第59号　2016年1月発行

発行・編集　私立大学環境保全協議会
Environmental Protection Association of Private Universities
〒169-8555
東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学環境保全センター内
TEL & FAX　03-5273-9605
印刷　(株)研恒社

第30回夏期研修研究会は同志社大学(2016年8月4日(木)5日(金)を予定)で開催します。